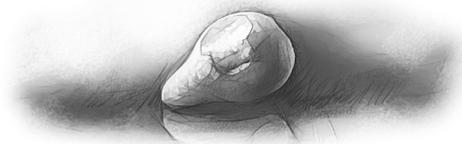


2 課

4月9日

人類の墮落



安息日午後 4月2日

暗唱聖句

お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に／わたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕き／お前は彼のかかとを砕く。(創世記3:15、新共同訳)

わたしは恨みをおく、おまえと女とのあいだに、おまえのすえと女のすえとの間に。彼はおまえのかしらを砕き、おまえは彼のかかとを砕くであろう。(創世記3:15、口語訳)

今週の聖句

創世記3章、2コリント11:3、黙示録12:7~9、ヨハネ8:44、ローマ16:20、ヘブライ2:14、1テモテ2:14、15

今週のテーマ

神がエデンで最初の両親に与えたものすべての中心には、同時に一つの警告も含まれていました。「主なる神は人に命じて言われた。『園のすべての木から取って食べなさい。ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう』」(創2:16、17)。善悪の知識の木からは食べてはならないというこの警告は(同2:16、17)、彼らが善を知ることはあっても、悪を知ってはならないということを示しています。

なぜその警告が与えられたのか、私たちはその理由を理解することができます。

さらに、この不服従についての警告(創2:17)に伴う死の脅威が成就し、彼らは死ぬこととなります(同3:19)。彼らは、園の木から食べることを禁じられただけでなく、もはやエデンの園から追い出され(同3:24)、罪人となった今、永遠の命をもたらすものに近づく道が断たれました(同3:22)。

しかしながら、原福音または「最初の福音の約束」と呼ばれている創世記3:15には、この悲劇のただ中であって希望が与えられています。確かにこれは、聖書において最初に登場する福音の約束であり、墮落したにもかかわらず、神が私たちに逃れの道を備えられたことを、最初に人に告げられた場面です。

問1 創世記3:1、2コリント11:3、黙示録12:7~9を読んでもください。
この蛇はだれですか。彼はどのようにしてエバを惑わしていますか。

〔英文では〕この節は「蛇」で始まります。〔英文の構造においては〕最初の語の「蛇」が強調されています。この「蛇」〔the serpent〕は定冠詞の〔the〕を伴っており、読者が蛇はだれであるかをすでに知っているであろうことを暗示しています。このように、この生き物の正体は、この章の最初の節からすでに明らかであると言えます。

聖書は蛇を神の敵として描き（イザ27:1）、はっきりと「悪魔とかサタン」と呼んでいます（黙12:9）。同様に、古代近東では蛇は悪の力を象徴しています。「サタンは、人に気づかれぬように働きを進めるために、媒介としてへびを用いることにした。これは、欺瞞の目的には、ちょうどよい変装であった。そのころ、へびは、地上の動物のうちで、最も賢く、最も美しいものの1つであった。へびには羽があって、空を飛ぶときは、みがき上げた黄金の色と輝きを放っていた」（『希望への光』27ページ、『人類へのあけぼの』上巻39ページ）。

聖書が悪魔について語るとき、悪魔がどんな形で現れようとも、単なる比喩として表現されていません。サタンは文字通りの存在として描かれており、悪や人間の暗い面を描いた象徴でも、抽象的な描写でもありません。

蛇は自分を神の敵のようには見せていません。反対に、蛇は神の言葉を繰り返し引用し、さも、御言葉を支持しているかのように見せます。それは初めからそうであり、サタンは好んで神の言葉を引用するようにさえ見せかけ、後に彼は、御言葉〔聖書〕そのものをさえ引用します（マタ4:6）。

蛇は女の質問に直接は反対せず、主が彼らに語られたことを信じているかのように見せかけます。しかし、最後に彼は問います。「……と、ほんとうに神が言われたのですか」（創3:1、口語訳）。このように、創造当初から、この生き物はなんとずる賢く、なんと巧妙に欺く者であったことでしょう。そして実際に、彼の言葉は人を見事にだましたのでした。

もしサタンが罪のないアダムとエバをだましたとすれば、私たちはどれほど無防備な状態にあるでしょうか。彼の欺きに対抗する最善の防御は何でしょうか。

問2 創世記2:16と同3:1~6を読んでください(ヨハネ8:44も参照)。神がアダムにお命じになったことと、蛇が女に言った言葉を比較してください。両者の間にはどんな違いがありますか。その違いにはどんな意味がありますか。

神とアダムとの会話(創2:16、17)と、エバと蛇との会話の類似点に注目してください。蛇はまるで神に代わって語り、神よりも多くを知っているかのようにふるまいます。最初は、彼は彼女に質問をただけで、女がもしかしたら神を誤解していたかもしれないと思わせただけでした。しかしその後、サタンはあからさまに神の意図に疑問を投げかけ、神に対する反論さえ口にします。

このサタンの攻撃は、死と善悪の知識という二つの問題に向けられます。神ははっきりと彼らの死を明言されましたが(創2:17)、サタンは、彼らは死なず、人は不死の存在であるかのようにほめかします(同3:4)。神はアダムに善悪を知る木の実を食べることを禁じられたのに対して(同2:17)、サタンは、その実を食べれば彼らは神のようになるのだと言って、彼らに食べるよう勧めます(同3:5)。

不死と神のようになること、サタンのこれら二つの欺きは、エバにその実を食べることを納得させます。女が神に背いて禁じられた実を食べる決断をした途端に、彼女はまるでそこに神はおられず、彼女自身が神に取って代わったかのようにふるまいます。聖書の記述は彼女の人格の変化を示唆しています。エバは神の言葉を用いて、禁じられた実を彼女自身が評価します。「女がその木を見ると、それは食べるに良く……思われた」(創3:6、口語訳)。これは「神は……見て、良しとされた」(同1:4など、口語訳)という、神の創造を評価している御言葉を思い起こさせます。

不死と神のようになるというこれらの二つの誘惑は、古代エジプトとギリシア宗教の根底にある思想です。彼らが神に属する性質であると考えていた不死に対する願望は、不死を得たいがために、彼らをして神の地位をも求めさせました。そしてこのような思想は、いつのまにかユダヤ・キリスト教文化の中に浸透し、靈魂不滅思想を生み出し、多くの教会の中に今日もなお存在しています。

人はみな、本来不死なのだとする教えや思想について考えてみてください。私たちの人間の性質と死後の状態についての理解は、このような危険な欺きに対してどのような力強い防壁となりますか。

問3 創世記3:7~13を読んでください。アダムとエバはなぜ神から隠れ、神はなぜ「あなたはどこにいるのか」(同3:9、口語訳)と問われたのでしょうか。アダムとエバは自分たちの行為をどのように正当化しようとしたか。

罪を犯した後、彼らから神の臨在の反映である義の衣が取り去られたために(詩編8:6、口語訳8:5を同104:1、2と比較)、アダムとエバは自分たちが裸であることを知ります。神のかたちは罪の影響を受けました。「そこで、彼らは、……自分たちの腰のおおいを作った」(創3:7、新改訳)という記述に出てくる「作る」〔造る〕という動詞は、この時までは創造主なる神だけに用いられています(同1:7、16、25ほか)。彼らのその行為は、あたかも自分たちの罪を覆い隠すために、彼らが創造主に代わったかのようです。この行為は、パウロが非難している行いによって義とされようとするものです(ガラ2:16)。

神は2人に近づいて、彼らに「あなたはどこにいるのか」(創3:9、口語訳)と問いかけます。後に神はカインにも同じように問いかけます(同4:9)。もちろん神はこの問いの答えをご存知でした。神のこれらの問いは、罪の意識を引き出すためであり、彼らがしたことを自覚させるためでしたが、同時に、彼らを悔い改めと救いへと導くためでもありました。人が罪を犯した瞬間から主は、彼らの救いと贖いのために働いておられたのです。

事実、このシナリオはすべて調査審判の手順を反映しています。それは判決を準備するための(創3:14~19)裁判官による罪人に対する審問で始まります(同3:9)。しかしこの審問は、最終的な救いへと導く(同3:15)悔い改めを促すためでもあります。これは聖書全体を通して一貫する主題です。

罪人にありがちなことのように、アダムとエバは2人とも最初は、他者に責任を転嫁し、訴えを逃れようとします。神の問いかけに対して、アダムは、自分のしたことは神が与えた女のせいであり(創3:12)、彼女が自分をそうさせたと答えます。これは女の罪であって(暗にそれは神の罪でもあるので)、彼の責任ではないと言います。

エバは、彼女の行為は、彼女をだました蛇のせいだと言います。「だます」(創3:13)と訳されているヘブライ語の「ナーシャー」は、人に誤った希望を与え、その人が正しいことをしていると信じさせることを意味します(王下19:10、イザ37:10、エレ49:16)。

アダムは自分に木の実を与えた女を責め(一部事実も含まれます)、エバは自分をだました蛇を責めます(これにも事実が含まれます)。しかし最後には、2人は有罪の宣告を受けます。

責任転嫁は、なぜ私たちにとってこれほどに陥りやすい罠なののでしょうか。

問4 「お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に／わたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕き／お前は彼のかかとを砕く」(創3:15)。主が蛇に言われたこの聖句の中に、どんな希望が示されていますか。

神は初めに、この罪の起源のドラマの首謀者である蛇を裁きます。蛇はまた、この宣告の中で唯一呪われる存在でもあります。

私たちはここにある種、創造の「逆転」を見ます。創造は命、「良かった」という評価、祝福へと導きましたが、裁きは死、悪、そして呪いへと導きます。しかし同時に裁きは、希望と救いの約束につながります。塵を食らい、頭を砕かれた蛇(創3:14)という陰鬱な情景の中に、人類の救いの希望が預言という形で輝きを放っています。その後続くアダムとエバに対する罪の宣告の前でさえ、主は彼らに贖いの希望を与えておられるのです(同3:15)。事実、彼らは罪を犯し、彼らはその罪のゆえに苦しみ、その罪のために死にます。しかし、にもかかわらず、そこには究極の希望、救いの希望があります。

問5 創世記3:15をローマ16:20、ヘブライ2:14、黙示録12:17と比較してください。これらの聖句には、大争闘と同時にどのように救いの計画が示されていますか。

創世記3:15と黙示録12:17との類似性に注目してください。竜(蛇)、激しく怒り(敵意を置き)、残りの者たち(子孫)、エデンの女と黙12:17の女です。戦い(大争闘)はエデンで始まり、人類の堕落を招き、そして終わりの時まで続きます。しかしながら、サタン(敵)の敗北はすでにエデンにおいて約束され、彼の頭は砕かれ、このテーマはサタンの最終的な滅びが描写された黙示録においてより明確にされています(同20:10)。これこそが、創造当初から人類に与えられた希望であり、この希望は、悪の知識によってもたらされた恐るべき混乱から抜け出す道となる希望であり、私たちが今現在も分かち合うことのできる希望なのです。

地上の罪と悪が始まったエデンにおいて、主はすでに人類に救いの計画を示されたことは、なぜ私たちにとってこれほどに大きな慰めなのでしょう。

問6 創世記3：15～24を読んでください。人類の墮落の結果として、アダムとエバにどんな変化が起こりましたか。

神の蛇に対する裁きは、はっきりと呪いとして明確に示されていますが（創3：14）、女と男に対する神の裁きはそうではありません。再び「呪い」という言葉が使われているのは、「土」に対してのみです（同3：17）。つまり、神は男と女に対して、蛇に対するものとは別の計画を持っておられたことを意味します。彼らには、蛇には与えられなかった希望が与えられたのです。

なぜなら、女の罪は蛇との関係に起因していますので、女に対する神の裁きについて述べている節は、蛇に対する裁きと関連しています。創世記3：15のすぐ後に同3：16が続いているからというだけでなく、これら二つの預言の間にある対比は、明らかに、同3：16の女に関する預言が、同3：15のメシア預言との関連の中で読まれるべきであることを示しています。出産を含む女に対する神の裁きは、救いに対する肯定的な見方の中で理解されねばなりません（1テモ2：14、15と比較）。

男の罪は、神の言葉を聞く代わりに女の言葉を聞いたためであったので、男がそこから取られた土が呪われます（同3：17）。その結果、男は顔に汗して働き（同3：17～19）、やがて彼が取られた土に「返る」のです（同3：19）。それは起こるべきではなかったことであり、決して神の最初のご計画でもありませんでした。

アダムが迎えねばならない死の絶望的な見通しに対して、アダムは女に目を向け、その出産を通して命の希望を見たことは重要です（同3：20）こうして、死の宣告のただ中であつてもなお、彼は命の希望を見るのでした。

一方、子を愛する親がそうであるように、神は彼らに悪でなく、良いものだけを望んでおられました。しかし彼らが悪を知ってしまった今、神は人を悪から救うためにできる限りのことをしようとされました。私たちの最初の両親は、楽園に生きていて、神を疑う理由も、神の言葉を疑う理由も、あるいは神の彼らへの愛を疑う理由もまったくありませんでしたが、神に対して公然とした露骨な不服従を示しました。にもかかわらず、これらの裁きのただ中であつて、神は彼らからすべての希望を取り去りはしなかったのです。

私たちは、「知識」は良いものだと考えがちですが、なぜ必ずしもそうではない場合があるのでしょうか。私たちが知らないほうが良いこともあるのでしょうか。

「命の木」と「善悪の知識の木」の関係について考えてみましょう。これらの2本の木が「園の中央」(創2:9)に置かれたという事実が、すでにその関係性を示しています。そこには単に置かれた場所の持つ関係性以上の意味があります。それは、人が神に従わないことによって、そして善悪の知識の木の実を取って食べることによって、命の木に近づくことができなくなり、少なくともこの状態では永遠に生きることができなくなったという関係性です。この関係性には深い原則が含まれています。それは、ソロモンが彼の息子に、「わが子よ、わたしの教えを忘れるな。わたしの戒めを心に納めよ。そうすれば、命の年月、生涯の日々は増し／平和が与えられるであろう」(箴3:1、2)と教えたように、道徳的、霊的選びは生物学的生命に影響を与えるという原則(関係性)です。この関係性は、都の中央を流れる川の「兩岸には命の木が」(黙22:2)ある、やがて来るべき天のエルサレムにおいて再び明らかになるでしょう。

「神がエバを造られたとき、神は彼女が男に対して劣る者でも、優る者でもない存在としてお造りになった。2人はあらゆる点において同等であるべきであった。この聖なる夫婦は、互いが自由気ままに生きることによっては何の利益も得るべきではなかったが、その考えと行動においては互いに自由であった。しかし、エバの罪の後、彼女は、主が彼女にアダムが彼女を治めるべきであるとお命じになった言葉に対する最初の違反者となった。彼女は夫に服従すべき存在であった。そして彼女の違反がその立場を呪いの一部に変えたのである。この呪いが多くの女たちを深く苦しめ、その人生を重荷に変えた事例はあまりに多い。神が男に持つようにお与えになった優位性は、その権力を自分勝手に用いることによって、多くの点で悪用されてきた。贖いの計画を考案した無限の知恵は、もう一つの試練を彼らに与えることによって、人類を第二の保護観察下に置かれた」(『教会への証』第3巻484ページ、英文)。

話し合いのための質問

- ① 神はエデンでアダムに対して、彼の罪意識を呼び起こすためだけでなく、悔い改めに導くために問いかけました。このような問いかけは、カインに対しても(創4:9、10)、洪水の際にも(同6:5~8)、バベルの塔のときも(同11:5)、そしてソドムとゴモラの滅びにおいても(同18:21)投げかけられます。これらの出来事において、調査審判の考えがどのように示されていますか。
- ② エバはなぜ、善悪の知識の木の実を食べることによって知恵を得ることができると考えたのでしょうか。私たちも、神の御言葉をあからさまに拒み、神がお与えになろうとするものよりもっと「良いもの」を手に入れたいと望む、エバと同様の過ちをどうすれば避けることができるでしょうか。

刑務所で赦される（その1）

スペインの刑務所で、聖書研究を希望する受刑者の名前が記された紙をボランティアたちが選びました。しかし、ある1枚の紙だけが残りました。「この男性と会いたい人はいないんですか」と、サグントアドベンチスト大学の36歳の神学生、ダンテ・マーヴィン・ヘルマンが尋ねると、「彼とは無理です」「彼は神様をばかにしています」と、彼らは言いました。

ダンテは祈り、「マティアス（仮名）に会いなさい」という小さな声を感じました。

ひげをきれいに剃った若いマティアスが、刑務所の中で最も厳重に監視されている食堂で待つダンテのもとに連れて来られました。収監されている他の受刑者とは違い、マティアスには入れ墨がなく、にらみつけることもしませんでした。

「あなたは、他の受刑者とは違いますね」とダンテが言うと、マティアスは笑い、「あんたは、俺がどういう人間か知らないだろ」と答えました。「あなたが誰で、何をしたかは関係ありません。私たちの誰もが間違いを犯すし、過去を変えることもできませんから」と、ダンテは言いました。

マティアスは、ダンテの腕に青い入れ墨があり、耳たぶにはピアスの穴が広がっているのに気づきました。「セブンスデー・アドベンチスト教会の信者なのか？他のアドベンチストとは違うな」と、マティアスは言いました。

「神様は、誰でも変えることができます」と、ダンテは答えました。そして、17歳のときに自分の魂を悪魔に売ったこと、ストリートギャングに加わったこと、薬物の売人をしてたこと、その後、聖書の神の愛を発見し、アドベンチストになったことを語りました。話し終えたとき、面会時間はなくなっていました。

「もう一度、来てくれないか？ あんたが話してくれた神について聞いてみたい。愛してくれる神なんて聞いたことがないんだ。神は怒って責めるだけじゃないのか？」と、その受刑者は言いました。

ダンテは、次の安息日に再訪問すると約束しました。大学に帰ったダンテは、マティアスのことを先生に報告しました。教師は、「彼がどんな人か知っていますか？」と尋ねました。首を横に振ったダンテに、先生はネットニュースで検索するよう提案しました。検索したダンテは、すぐに祈りました。「神様、これはとても深刻です。なぜ、私を彼に遣わされたのですか？」と、彼は言いました。彼は、静かな小さい声が答えるのを感じました。「ダンテ、私はあなたのために恵みを持っています。私はあなたを赦しました。私は彼のことも赦すことができます」（続く）



な小さい声が答えるのを感じました。「ダンテ、私はあなたのために恵みを持っています。私はあなたを赦しました。私は彼のことも赦すことができます」（続く）

（アンドリュー・マクチェスニー）